



小田小だより

平成29年7月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号

TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

自然や歳時に学ぶ

～もうすぐやってくる夏休みに思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

7月に入ります。7月は、稲の穂の含み月の意から「文月」とも言われます。梅雨が明け、暑さが厳しくなる季節であり、稲の成長を頼もしく感じる季節でもあります。7日は「川の日」ですが、「七夕」でもあります。夕食後は戸外に出て、夜空に瞬く美しい星、美しい天の川を見上げてみてはいかがでしょうか。時として、横浜でも美しい流れ星に出会うことがあります。

「夏は夜。月の頃はさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りていくもをかし。雨など降るもをかし」

とは、今、5年生の国語で学習している清少納言による「枕草子」の文章ですが、夜の月、闇夜の蛍、雨など、どれも美しい夏の季節の趣・風情を表しています。平安時代であろうと現代であろうと、時代の違いはあっても、美しいものはやはり美しいのです。

その中でも、都会ではなかなか見ることができない蛍。初夏の夜、水辺にはかない光を漂わせる幻想的な蛍。清流に住む蛍は人里離れた場所にしかいないように思っていました。しっかりと日本庭園の闇の中で蛍を鑑賞できる場所がありました。本牧の三溪園です。6月10日（土）に気の置けない仲間6人で『蛍の夕べ』という季節イベントに行ってきました。

大池のハナショウブもちょうど見ごろ。まだ明るいうちにそちらも楽しみつつ、夜を待ちました。三溪園にいたのは「ゲンジボタル」という日本を代表する蛍。尾部にある発光器官は、オスが体節二つ、メスが一つ、強弱をつけながら発光を繰り返します。

今年は気温が高くて蛍の羽化も順調だったそうですが、ここ数日で30頭以上の蛍が羽化してきているとのこと。蛍は温度が高い方が活動的になるといいます。その日は条件にも恵まれ、多くの蛍が飛び交うのを目にすることができました。金・土・日は、虫かごに入った蛍を間近に見られる観察コーナーも開設され、頭にあるピンクの模様や、尾部の発光器官を観察することができました。観察コーナーとなる旧燈明寺本堂は、普段は非公開の室町時代の建物。由緒ある建造物が多い三溪園。歴史に思いを馳せながら蛍を眺めるのも趣がありました。

夜半、団扇（うちわ）を片手に戸外に出て、美しい星空の下、美しく飛び交う蛍の姿を眺めるのはやはりいいものです。

また、夏の朝、「朝に見て美しい花」と言えば、アサガオです。アサガオの美しさは、私たちに涼しいイメージを与えてくれます。正に、暑気を払う美しさです。なお、このアサガオは、奈良時代の後期に薬草として中国大陸から渡ってきたものと言われています。当時のアサガオは、現在のようにさまざまな色を咲かせる花ではなく、薄い青みを帯びた花だったそうです。

そして、夏の情景と言えば、入道雲と蝉の声でしょうか。時に、にわかには曇りだして、ポツリポツリと落ちる大粒の雨、しかも最近の夕立は、熱帯地方のスクール並で、まるで滝のような激しい雨になりがちではありますが……。ある意味で美しい雨音、雨足、その後に現れる美しい虹……。夏の雨も美しいものです。

上述したような「7月の自然や歳時」、その美しさに触れることにより、「美しいと思う、自分の心が美しい」と悟る感性……。また、生きていることの喜びや「感謝・畏敬の念」を通して、自らの心を一層豊かなものにしてほしいと願っています。

7月25日から夏休みに入ります。体調や事故に気をつけて、8月28日には子どもたち全員が一段とたくましく元気な姿で集うことを楽しみにしております。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。